

日程第2 . 一 般 質 問

議長（倉又 稔君）

日程第2、一般質問を行います。

発言通告者は10人ありますが、議事の都合により本日5人、15日5人を予定しております。

一般質問の質問時間は、答弁を除き1人30分であります。

所定の時間内に終わるよう質問・答弁とも簡潔に、要領よくお願いいたします。

また、質問は通告の範囲内にとどめるようご協力をお願いいたします。

通告順に発言を許します。

田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

おはようございます。

糸魚川21クラブの田原 実です。

今回の私の質問の1は、地域医療についてです。

8年前の2007年6月、姫川病院の突然の閉院は、糸魚川市民が地域医療への不信を持つこととなった大きな出来事であり、そのことを忘れないために私は毎年6月に、地域医療の状況と課題について伺い、市民を守り、糸魚川の未来をつくる医療の確保と充実を訴え続けております。

質問の2は、新幹線開業への対応です。

私は新幹線開業への対応をテーマに、昨年の9月議会から連続シリーズで伺ってきました。今回はその4ということで、もし人気テレビ番組「ブラタモリ」などの撮影の誘致をするならばという切り口から、糸魚川の情報発信の企画、構成、演出、そして知名度アップがちゃんとできているかどうかについて伺います。

では、事前に提出しました発言通告書に基づき、以下、質問をいたします。

1、糸魚川地域医療の現状と課題、糸魚川市の対応について。

- (1) 糸魚川圏域の医師・看護師数の現状と対策などについて伺います。なお、データは最近のもので説明願います。
- (2) 365日24時間救急医療体制の現状と対策などについて伺います。
- (3) 地域医療への不満など市民の声とその分析、対策などについて伺います。
- (4) 子どもの命を守る取り組みについて、小学校などでの感染防止対策について伺います。
- (5) 保健センターの改修工事と活用について、健康教室や健康運動教室などへの取り組みについて伺います。
- (6) 糸魚川市の高齢化率と認知症患者の増大について、その対策などについて伺います。

2、人気テレビ番組「ブラタモリ」などの撮影誘致、放映による糸魚川からの情報発信の取り組みについて 新幹線開業への対応（その4）

- (1) 北陸新幹線開業に対応した金沢や富山の番組撮影誘致についてどう分析していますか、それに比較して糸魚川市の対応はどうであったのか、伺います。
- (2) 「糸魚川のまち歩き」を観光客や市民が楽しむ仕掛けはありますか、また、その素材はどのようなものがあると考えていますか、伺います。
- (3) 相馬御風と糸魚川文化、糸魚川駅周辺の中心市街地の歴史的な街並み、また、筒石地区集落の特徴ある漁村などを見て、学んで、楽しむ仕掛けはありますか、伺います。
- (4) 糸魚川ジオパークの特徴的な地形地質やヒスイをはじめとする豊富な鉱物鉱石などを学び楽しむ仕掛けはありますか、伺います。
- (5) 人気テレビ番組「プラタモリ」を見るにつけ、糸魚川こそ撮影地として取り上げてほしいと感じています。これまで放送局や番組制作会社などへの働きかけをしてきたか、伺います。
また、今後の糸魚川ジオパークを活かした誘客の戦略として、著名人で、断層や地質、歴史、鉄道などへの造詣の深いタモリさんに糸魚川へおいでいただき、「糸魚川の個性と面白さ」をマスコミ、口コミで広めていただくことが重要と考え、提言しますがいかがですか、伺います。

以上、1回目の質問です。よろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

おはようございます。

田原議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、本年5月現在で、医師は64人、看護師は平成24年12月の調査で273人となっており、県平均より少なく、不足している状況であります。このため医師養成資金や医療技術者修学資金貸与などによりまして、確保に努めているところであります。

2点目につきましては、医師会や糸魚川総合病院等にご協力をいただき実施しておりますが、救急医療にかかわる医師の確保が課題であり、富山大学などに訪問いたしまして、要望活動を行っております。

3点目につきましては、糸魚川総合病院において常勤の医師が不在でありまして、診療科に対して不安の声をお聞きいたしております。厳しい状況ではありますが、引き続き関係機関と連携をいたしまして、要望活動を行ってまいります。

4点目につきましては、学校では感染症予防の啓発を行い、うがい、手洗いを励行いたしております。発生時には関係機関へ報告をいたしまして、情報共有を図っております。

また、流行予防のため児童生徒の健康観察や欠席率に留意をいたしまして、早期発見と適切な措置に努めております。

5点目につきましては、今回の改修にあわせてエレベーターの設置など、利用しやすい施設に整備をいたしましたので、今年度から新たに地区運動教室や、ころばん塾の会場といたしまして利用させていただいております。

6点目につきましては、本年4月現在、高齢化率は36.2%であります。介護認定者のうち約

67%の方が認知症、または認知症の疑いがあり、高齢者福祉計画と国の新オレンジプランに基づいて認知症サポーター養成講座や認知症カフェ定期相談会などを実施いたしております。

2番目の1点目につきましては、金沢、富山は県庁所在地であり、特に金沢は以前から観光地で、新幹線の終点ということから番組放映が多かったと感じております。

当市では、新幹線開業に向け各テレビ局への情報提供を行う中で、フォッサマグナミュージアムやジオパルを中心に全国放送で取り上げていただいたと思っておるわけでございまして、非常に多く取り上げていただいたと感じております。

2点目につきましては、糸魚川の町歩きを楽しんでいただけるよう、町歩きマップやパンフレットを作成し、歴史的な町並みや塩の道を紹介いたしております。

3点目につきましては、御風宅や大紅屋などで各種のイベントなどを通じまして、特色のある糸魚川の文化や町並みを学び、楽しんでいただけるようなきっかけづくりを進めていきたいということを考えております。

また、筒石集落につきましては、魅力ある漁村の路地景観を残しておりますが、住環境と接近していることから地元とのコンセンサスが必要と考えております。

4点目につきましては、フォッサマグナミュージアムでの豊富な種類の岩石の展示や、ジオサイトでの解説板の設置など、ジオパークの理解を深める取り組みを行っております。

5点目につきましては、これからも多くの著名人から糸魚川へお越しいただき、メディアを通じ糸魚川のよさを発信していただけるよう情報提供をしていきたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

では、地域医療について再度の質問です。

医師、看護師が少ない糸魚川圏域の状況、医師・看護師数の他地域との比較、県や全国の人口10万人当たりの医師、看護師との比較の最新のデータ、ここ数年の経緯と将来の見通しなど分析しているか、改めて担当課に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

おはようございます。お答えいたします。

医師、看護師の調査につきましては、2年に一度の調査でございまして、直近では平成26年12月の調査でございしますが、その数字については、現在、公表されておりませんので、申しわけございませんが、平成24年12月の結果で、若干、申し上げさせていただきます。

医師数につきましては、全国平均で227人、県平均で182人、当市は121人となっておりまして、20市の中では11番目というような数字でございます。

看護師につきましては、全国平均796人、県平均が843人、当市は588人で、20市の中では14番目というような位置づけでございます。

なお、最近の数字がございません関係から、市の聞ける箇所に聞き取り調査をさせていただいたものでは、本年5月末の現在の医師数では、先ほど市長答弁で申し上げましたように64人というような形になっておりまして、平成24年の12月の調査では58人ということでございますので、6人多いというような状況でございます。ただ、これにつきましては、本年、糸魚川総合病院のほうに研修医で8名が勤務されていて、これが大きく影響しているものでございます。

これまでの推移と今後の見通しについてでございますが、全国的に実施しております直近の調査の結果では、医師数は病院の常勤の減少から、やはり減少傾向というようなことが言えるかと思っておりますし、ただ、これにつきましては、当市が取り組んでおります医師養成資金貸与事業によりまして、本年2人の方が研修医という形で糸魚川総合病院に勤務されておりますし、来年度につきましても勤務される方がおられる予定でございます。

看護師につきましては、数字的には増加傾向でございますが、介護保険施設等の新たな需要等もある関係から、やはり不足しているというような状況でございます。これにつきましても医療技術者修学資金貸与事業等をする中で、確保に努めさせていただいてるところでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

ありがとうございました。

公表されている数字は、もう3年前のものということですが、担当課のほうでそれなりに分析をしてくださっていると。そして今の報告にありましたとおり糸魚川総合病院では、研修医がふえているということですね。やはり若いお医者さんが医療機関にいるということは、非常に大事なことだと思います。それは糸魚川市の支援もあってということだと思っております。こういった取り組みをさらに押し進めていただきたい。

それで糸魚川市の医師や医療技術者の確保対策、今どのくらいの予算をかけているのか、市の取り組みについて改めて伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

当市の今年度の予算でご説明をさせていただきますが、医師養成資金の貸し付けにつきましては1,080万円、医療技術者の資金貸し付けにつきましては1,200万円、当市を臨床研修の対象といたしました研修の補助金といたしまして100万円、高度医療技術者人材育成事業といたしまして100万円を計上いたしております。また、このほかに直接、医師確保ということではございませんが、病院の機器への補助という形で1,995万円を予算計上しておりまして、こういった

医療環境の向上によって医師確保に努めているところでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

行政からの支援も一生懸命やってることが確認できました。

それで糸魚川総合病院は新潟県でありながら、新潟大学からの医師派遣ルートというのは細くなっておりまして、主に富山大学からの派遣に頼っているという現状であると思うんですけども、これがいつまで続くのかということですね。続けていただくために糸魚川市からも、さまざまな医療の研究等への支援をしてると思いますけども、この現状、それから今後の見通しというものを、もしお考えであればお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

この5月現在で、富山大学から糸魚川総合病院のほうに派遣をいただいておりますのが15人いらっしゃいます。また、新潟大学からは3名というような状況でございます。

県内の医師の不足している状況は、当市だけでなく全県的な部分でもございますし、当市の県内での地理的位置関係等を考えますと、今後も富山大学との連携強化等は必要なものでございますし、そういったものを継続していくというような考えでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

姫川病院閉院の原因に、医師派遣の仕組みが変わって、医師不足が深刻になったということがあったと思います。あれから8年、今もなお全国的に医師不足の状況が深まる中、いつまで糸魚川総合病院に医師が派遣されてくるとは考えにくい。相当な危機感を持って情報収集と、状況分析をしなければならぬのではないかと。県というくくりでは糸魚川の医療圏域は上越圏域に含まれているから、上越を拠点化すればそれでいいとなるし、新潟大学は大学の医師、研修医確保を優先するでしょう。富山県は富山大学での医師、研修医確保を優先するでしょう。いつまで県境を越えて糸魚川へ医師派遣をするんだとなるのではないかと心配しております。するとお医者さんは、どこから糸魚川に来てくれるのか。これは医療の問題だけでない、政治の大きな問題だとして、これまで市長、行政が対応してきたわけですけども、もし、またかつてのような医師の配置や派遣の制度改正があれば、糸魚川は相当深刻な状況に追いやられるのではないかと。その点、市長、行政の認識を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさしく議員ご指摘のとおりであるわけでありまして、我々として、そういったことにならないように、今、いろいろ手だてを立てておるわけですが、環境は決していい方向にいった状況ではございません。この医師の研修制度が変更したときには、本当に大きく変化したわけですが、それが5年たった戻ってくるというようなそのときの状況であったわけですが、それは戻るところか、さらに非常に悪い環境になっているという状況でございますので、そういったところをどのように進めていくかの中においては、ことしの3月14日に北陸新幹線が開業したということが、今、非常に直接、広くおいでいただける環境が整ったということで、今、糸魚川総合病院さんと連携をとりながら、その枠を広げていけないかということも検討しながら進めております。

基本的には、富山大学とのパイプを強めていながら、そういう方向も視野に入れながら、今、活動しなくちゃいけないという状況であろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

市長からは厳しい状況ではないかと、しかし頑張っているよというお話をいただきました。

国が医療の専門性を高めるために、2年の研修期間の後、専門の研修をするために、今度は大学病院など大きな施設で、そういったことをやっていくという施策を進めているらしいということちょっと私、聞きました。そうすると、また糸魚川から医師が引き上げられて、深刻な医師不足になっていくということが心配されるわけですね。そういうことになったとしても、市はしっかり対応して下さるかどうかなというのを、もう一度、市長に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

そのときに糸魚川は、じゃあ何をなすべきかというところを問われる部分だろうと思っておりますが、やはり医師はどういう状況が変わろうと、非常に有名であったり、そしてまた優秀な病院で研修をしたいという、またそこで学びたいということが多いわけですが、糸魚川総合病院に対しまして、またいろんな支援をする中で、魅力のある病院となるよう努めておるわけですが、また、最近では地域医療という分野についても関心を持つ人たちも多くなっているわけですので、そういった分野で糸魚川総合病院は非常に学びやすく、また魅力のある病院だという方向づけを、一緒になって取り組んでいかなきゃいけないだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

糸魚川総合病院が若い医療の人材を呼び寄せる、マグネットホスピタルとしての役割を果たすような、そういったことへの取り組みに応援をしていきたいと、こういうお話であったと思います。よろしく願いいたします。

医師の不足から生じる大きな問題というのを考えますと、救急医療体制が確保できないこと、それから2次救急対応の存続ができないことでもあります。市民が安心して、ここ糸魚川で暮らすためには、2次救急医療対応が圏内で不可欠であります。市長、行政の力で、何としても糸魚川医療圏域での救急医療体制を確保していただきたい。市の取り組み、ことしの予算などではどうなっているか、改めて伺いたいと思います。担当課さん、お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

今年度の予算の中におきましては、救急医療にかかわるものとしていたしまして病院群輪番制運営事業の補助金、また、救急医療にかかる医師の確保に対する補助金など、合わせまして救急医療対策事業としていたしまして9,090万円。また、そのほかに歯科のほうの関係で、上越休日歯科センター運営事業負担金という形で33万4,000円を計上させていただいております。

また、今後の取り組みにつきましては、やはり確かに常勤医師の不足の中から、救急に携わっていただくお医者さんも少なくなっている状況でございます。先ほど市長の答弁にもございましたように北陸新幹線開業を生かす中で、県外から救急医療に携わっていただける医師を確保できないかということで、今、検討を進めているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

本当にそこら辺のマッチングが一番の課題かなと思っています。

少し厳しい話をしていきたいと思いますが、糸魚川総合病院の救急外来棟建設は、米田市長も一生懸命やっただき、また、市からの大きな支援もあって実現したことと思います。

問題は医師が不足する中での受け入れ体制ですけども、現在どのような状況になっているか。また、市外の医療機関への搬送、それから救命率、そういったものについてはどのような状況か。担当課で調査し、分析してあることがあれば、お話をいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

消防長（大滝正史君）

お答えします。

救急車による傷病者の受け入れで申し上げますと、平成24年から平成26年までの3年間では、毎年1,800人前後の人が救急搬送をされておりますが、そのうちの約90%が糸魚川総合病院で受け入れをしていただいております。救急外来棟、地域救急センターの運用開始や医師会などのご協力によりまして、病院内におけるよりスムーズな受け入れ体制、また、365日24時間の受け入れ体制が図られているものと捉えております。

市外医療機関への救急搬送につきましては、同じく平成24年からの3年間では、搬送人員の7から9%台で推移をしており、大きな変動はないというところでございます。

また、救命率につきましては、心肺停止をした傷病者に対する社会復帰をした人の割合を1つの指標として示しておりますけれども、当消防本部では心肺停止者数、また、社会復帰者数、それぞれの数値が比較的少ないということから、年によりこの救命率が大きく変動をしておる状況であります。ちなみに平成24年からの3年間では、救命率は1から4%台で推移をしております。この救命率の向上が目標であるわけでありまして、一概には申し上げられませんが、必ずしも高い数値ではないという状況であります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

市民の皆さんの声を伺いますと、やはり糸魚川総合病院が救急外来棟を建設して医師確保に努めていると。そこはいいのだが、実際、お医者さんがいないので、救急車で搬送されたんだけど、市外の病院へまた再搬送された。それによって、手おくれになったのではないかという声はどうしてもあるわけですね。糸魚川圏域の中での2.5次救急を担う拠点として、糸魚川総合病院の救急外来棟を建設するということであったのですが、なかなかその目的が果たされていないのではないかという声もあります。そこら辺は、行政としてはどのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

確かに今、議員のご指摘にございましたように、また、先ほど消防長が申し上げましたように、市外への搬送等の事例も確かにございます。ただ、その傷病の程度によって、やはり大きな病院で、専門性の高いところで受けたほうが、より助かるというようなものもございまして、そういうふうな区分けの中でしておりますし、ただ、なるべく議員さんがおっしゃいますように、2.5次救急を維持する中で、糸魚川総合病院の中でそういったものができるような体制が整えばベストかと思っておりますが、なかなか今の状況では難しい状況でございまして、その辺に向けて、頑張らせていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

確かに助からなかった命もある。しかしながら、助けていただいた命もたくさんあるわけですね。そういったことで糸魚川総合病院が、救急受け入れの対応の拠点として頑張っているということなんですけども、市長のほうから何かメッセージはありますか。こういう今の厳しい状況だけでも、糸魚川の医療を守っていくために、そこら辺の取り組みということをも市民に理解してほしいというようなことがあれば、お話をいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に我々糸魚川市において、糸魚川総合病院の果たす役割というのは大きいわけではありますが、しかし厚生連全体で見ますと、非常にまた厳しい環境でもあるというのも、今、お伺いさせていただいて、非常に我々といたしましても危機感を持っております。どうあればこの糸魚川総合病院が地域の基幹病院として、本当に十分な役割を果たしていけるのかというところを、しっかり考えなくてはいけないなと思ってる次第であります。でありますから厚生連の病院というところではなくて、もう糸魚川の糸魚川総合病院という捉え方で、今、我々も支援をさせていただきましたし、連携をとらせていただいております。

また、救急医療に関しましてはドクターヘリ、新潟県は2台目をということで、今、お考えいただきたいとるわけでございますが、それについても糸魚川へというわけにはいかないにいたしましても、上越へやはり置くべきという形の中で妙高市と連携をとって、今、要望させていただいております。1つしかない医療施設を十分に果たせなければ、外部で何かならないかというような考え方も今進めておるわけでございますが、厳しい医療環境、特に医師不足がまだまだ続く中においては、厚生連のこの医師不足もやはり大きくかかわってくるのかなという危機意識で、我々この平成27年、また一踏ん張りも二踏ん張りもしなくちゃいけないと思ってる次第であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

市長、ありがとうございました。

では、続いて看護師不足への対策について伺います。

地域にお住まいされ、一時、医療の現場を離れている、いわゆる潜在看護師の掘り起こしに市も取り組んでいただいていると思いますが、最近の状況はいかがでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

潜在的看護師の再就職支援につきましては、平成26年度から取り組みをさせていただいたものでございまして、糸魚川総合病院のほうに講習会等依頼をし、それに対する行政が支援をしているという状況でございます。

ただ、残念ながら平成26年度については、広報等を通じる中で周知をさせていただきましたが、応募がなかったというような状況でございまして開催しておりませんが、平成27年度におきましては4月の広報、また、6月にも広報、また人とのつながりの中でのネットワークを活用する中で、そういった掘り起こしに努めていきたいというように思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

では次に、新人の看護師の育成と、それから地元医療機関での就労、それぞれについて行政からの支援策があれば、いま一度教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

新人看護師の研修につきましては、それぞれの医療機関の中で行っていただいているものというふうに思っております。

また、地元医療機関への就職支援につきましては、先ほど来、お話しておりますように医療技術者修学資金貸与事業の中で、看護師資格の方に対しても貸与いたしております。それらの貸与者が今現在、約50%が地元のほうへお戻りいただいているような状況でございます。そういった方々が1人でも多く就業していただけるような取り組みを、進めてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

連携による看護師の確保についても伺います。

上越の看護大が糸魚川市と連携して、住民の健康増進をサポートしています。これが不足している看護師確保につながればと、糸魚川市健康増進課は期待し、取り組んでいると思いますが、看護師はふえたのか、現状と課題を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

県立看護大学の連携を始めてから、そこを卒業されて市内で看護師として就職された実績は、現在のところ残念ながらございません。やはり毎年、看護大の生徒のほうが当市を地域医療の研修の場としておいでいただいておりますので、その中で当市のよさ、また、そういったものを通じて、興味を持っていただくように取り組んでいかなきゃいけないというふうに認識してるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

今後は糸魚川の医療の質を高めるためには、専門の資格を持つ看護師さんを育てる必要があります。それでどのような専門の資格があるのか、また、その取得にどういったことが必要なのか、おわかりであれば教えていただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

看護師の資格といたしましては、認定看護師、専門看護師等がございます。

認定看護師につきましては、熟練の看護技術を用いて高い水準での看護を実践する、看護実践を通じて看護職員に対する指導を行う、看護職の相談を行うというような形にされておまして、それぞれ21の専門分野に分かれております。具体的には、救急看護認定看護師や緩和ケア認定看護師などがございます。

資格の取得につきましては、認定看護師教育機関で6カ月、615時間以上の講義等を受講し、認定看護師試験に合格する必要があるがございます。

また、専門看護師につきましては、役割としては認定看護師にプラスをいたしまして、保健医療分野でのその間の調整や、看護職に対する教育的役割、また、看護実践場におきます研究活動を行うというようなことにされておまして、こちらにつきましても、それぞれ11の専門分野に分かれており、具体的には精神看護専門看護師や母性看護専門看護師などがございます。

こちらの資格取得につきましては、看護系大学院修士課程を終了後、専門看護教育課程の所定の単位を修得している方が試験に合格すると認められるというような状況でございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

ありがとうございました。

それでやはり看護師さんが不足する中で、さらにこういった専門性の資格を持つことを目指して地域医療に貢献したいという、そういう看護師さんがいらっしゃるとすれば、それはやはり応援していきたいと思いますよね。糸魚川に住み、糸魚川の医療機関に勤め、そして専門の看護の研修を学びたいという方がいらっしゃるとすれば、新幹線も開業して、そういう研修機関との距離も縮まってきたわけですから、そういうモチベーションを持っている看護師さんには、市としても積極的に応援をしていくべきではないかと。もし資格を取得していただければ、医療の現場に必ずよい効果が生まれると思います。そういった方への資格取得のためのサポート支援、市でも予算をつけて応援していけばどうかと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

市におきましては平成25年度から、高度医療技術者人材育成支援事業というようなものを行っておりまして、このものは病院勤務の医師の研修や看護職員の資格取得に対する補助金でございます。今、議員がおっしゃったような資格取得の部分につきまして、この補助制度の中の対象になるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

せっかくですから、今のその補助対象となるところのものでどういったことなのか、もう少し細かく教えていただければ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

補助対象の経費といたしましては、旅費、宿泊費、入学金、授業料、実習費、教材費等が対象になりまして、補助率については、2分の1というような形になっております。補助の上限につきましては、看護師の場合につきましては40万円、医師につきましては60万円というような上限の縛りの中で、補助させていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

わかりました。

では次に、地域医療への不満など市民の声への行政対応について、今、行政に寄せられている地

域医療の不足への市民の声はどのようなものか。また、その行政対応について、担当課より伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

平成26年度で、市長へのご意見直通便という形で、医療に対してご意見をいただきましたのは1件でございまして、内容的には耳鼻咽喉科等の常勤医の確保、また、耳鼻咽喉科等の診療所の開院等に対するご意見でございました。

その他、健康増進課のほうにお話をいただいた意見といたしまして、病院の診療に対する不信というような形で2件、直接お聞きをいたしておりますし、病院の設備、またその他のご意見を2件お聞きをいたしております。

耳鼻咽喉科等の常勤医の確保、また、町中での診療所の開院につきまして、やはり厳しい医師確保の状況の中ではございますが、今後もそれらの意見を踏まえながら、医師確保に向けた努力を強めていきたいというふうに思っております。

また、病院の診療に対する不信に対しては、具体的なご意見のものにつきましては、直接、該当病院のほうへお問い合わせさせていただく中で事実関係を確認し、対応が必要であれば、そういったものを求めてまいります。

また、病院での接遇、その他につきましては、具体的なものにつきましては、それぞれ個々にお話をさせていただきますが、今回いただきましたものは具体的な例示ではなく、聞きづてというような部分の中でお聞きした部分の関係から、病院のほうには時期を見てお話させていただいておりますが、その都度、個別な事実確認ができない関係から、その場で、その程度でとどめているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

以前も申し上げましたが、人口5万人未満の町でできる医療と、できない医療があることを市民によく理解してもらって、不満をためないようにする。それでようやく今の医療が、守られていくというふうに私は考えています。

そこで、医療を行うのは医療機関、行政は医師、看護師、それから現場の頑張りを市民にアピールする。そういったことが、大切ではないかなというふうに考えております。単に市内の医療機関をホームページで周知するだけでなく、医師、看護師、現場の頑張りを市民に伝え、理解を求める。そのことを医療機関に委ねるだけでなく、関係機関と情報を共有して市民理解を進める。そのマネジメントをしていくという、それが行政の役割でないかなというふうに考えております。そして、そのマネジャーを務めるのは、市の保健師ではないかというふうに思うわけですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

議員ご指摘のとおり、当市で全ての医療が完結できるというような状況でございませんので、高度な医療、専門性のあるものにつきましては、やはり市外での医療という部分もあるというふうに考えております。それらを考え合わせの中で他地域との比較等を含めまして、当市の医療の現状、そういったものについて市民の皆様方にご理解をいただくことは、大変大切なことだというふうに思っております。これにつきましては、フォーラム形式にするのかどうかは別といたしまして、年度内の中で、ちょっと検討してまいりたいというふうに思っております。

また、後段のほうでお話のございました保健師が医療機関、または市民とのつなぎ役という部分につきましては、これまでも必要に応じ市民からのお問い合わせ、そういったものを医療機関につなぐ。また、医療機関からの話につきましては、市民の方にお話するということにつきましては、必要に応じて取り組まさせていただきますところでございます。

また、医療現場の頑張り等につきましても、私ども市民のほうへ健康づくり教室とか、それぞれ出前講座等の機会がございますので、そういった部分の話の中に織り込みながら、伝えてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

さらなる取り組みというものをお願いいたします。

ここで最近、私が知った市民と医療のお話をご披露したいと思うんですけども、公益社団法人日本看護協会が5月12日の看護の日を記念して公募した、忘れられない看護エピソードという作文コンテストがあります。そのコンテストで糸魚川市内の小学生、入江夏希さんの作品「わすれられない誕生日」が、応募数3,500以上の中から特別賞を受賞したということです。

夏希さんがけがをし、糸魚川総合病院で治療してもらったエピソードには、看護師さんへの感謝の気持ちがあふれています。この冊子がそうでありますけども、この中に文書、それから何と有名漫画家、桜沢エリカさんの漫画として読みやすくなっております。こういうものですね。文書と、こちらのほうに漫画があるんですね。これはどなたでも見ることができると思うんですけども、このことをご存じだったかどうか、そこを伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

5月11日ごろだったと思うんですが、その新聞報道の中でそういった記事が出たということで承知しておりますし、やはり今、議員さんがおっしゃいましたように、医療現場での頑張り等が市

民に周知される、いい情報だなというふう感じたところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

地域に医療があり、看護師さんに親切にしてもらったことに素直に感謝する子供の気持ち、ここに私、見習うべきものがあるなど改めて気づかされたわけですが、このことをより多くの市民にも知ってもらいたいと思います。病院のためにもなり、また市民のためにもなると思います。このことを広める何かアクションをしていただけないかということなんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

この場で、直ちにこういった形にするというふうなお答えはできませんが、どういう形の検討ができるのか、検討させていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

さて、子供から気づかされるということでもう1つ、小さな市民が地域医療の存続を心配し、充実を願っている例をご紹介します。

市内の中学校で、生徒が考える糸魚川の活性化策やまちづくりについての研究発表、この中で中学生から医療への提言があると聞いて私も会場へ伺いました。このことは以前にも触れたと思います。この取り組みについて担当課、それから教育委員会は知っていましたか。また、どのように対応しましたか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

議員のお話は、平成25年の7月ごろ青海中学校で行われたことであれば承知をしておりますし、そのときには企画財政課の職員と青海事務所の職員2人が参加する中で、お聞きをしております。また、その辺の掲示物等につきましては、ちょっとお借りをし、庁内の中で掲示をさせていただいた経緯がございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番(田原 実君)

昨年の分はどうだったでしょうかね。それから教育委員会としてはそういったことを、これから子ども一貫教育等々の中でも、あるいは日本一の子どもをつくるということの中でどのように取り上げていくか、そこら辺、お考えがあれば伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

教育委員会こども教育課長(山本 修君)

お答えをいたします。

昨年度、10月に青海中学校で行われたというふうに聞いております。市内の中学校では総合学習の発表の場として、いろいろな活動を各中学校で行っております。まちづくりについて、また、自分自身の進路について学習の成果を発表しているというふうに承知をしております。

青海中学校でも昨年度、医療・福祉、生活、まちづくり等々についてのポスターを使っでの発表が行われたというふうに、校長から報告を受けております。今まで実際に見に行くことがございませんでしたので、今年度はぜひ見に行かせていただきたいというふうに思っています。子供たち一人一人が市の現状を理解して、課題をつかんで、それぞれ自分自身が何をすべきかということを考えることは、ふるさとの愛着や誇りを持ち、そして未来を切り開く力を育てていく上で、大変重要なものというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番(田原 実君)

時間の関係上、その内容につきましては、学校にまた確認してほしいと思いますけども、私からはそのポスターセッションのポスターの表題のみ幾つかご紹介いたします。

糸魚川の医療問題について、一人でも多くの命を助けよう、看護師不足の解消による医療の充実について、糸魚川市と医療機関、市内の救急医療、高齢者の健康はまちの健康、そして住みよいまちは医療からというふうに、多くの生徒が糸魚川の地域医療に危機感を持ち、対策を考えてくれました。そこには子供たちの医療や、まちの未来への思いがあふれています。この思いをそこでとどめ置くのではなくて、この延長上に医師、看護師が誕生してほしいと私は願わざるを得ません。そこで将来、医師、看護師を目指す子供たちのために、市はどのような支援をしているか、改めて現状を伺いたいと思います。

あわせて医療系、看護系の学校への進学、例えば受験のフローをつくったり、アドバイスをしていくことへの行政、教育委員会からのサポートみたいなものを、お考えであるかどうか伺いたいと思います。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

教育委員会こども教育課長(山本 修君)

お答えをいたします。

市教育委員会では市内の中学校 1 年生に、大学訪問事業を実施しております。キャリア教育の一環として行っております。上越教育大学と上越の看護大学を中学 1 年生が訪問しております。そこでは大学生から、大学に入るまでのこと、そして大学に入ってから自分たちはどういうふうにして学習をしているのか、看護大ではこんな勉強をするんだということを中学生に語ってくれています。子供たちはそれを聞いて、自分たち自身のプラン設計ということを考えてまいります。各校では自分自身のプランを描いて、将来設計ですとか進路計画を立てる指導を各校で行っておりまして、県でもキャリア教育というものを推進することを、重点の 1 つとして捉えておりますので、各校でキャリア教育を推進をしているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

医療の道に進もうとする子供たちのモチベーションを上げる、そのための 1 つ提言をしたいと思っております。市内の中学生と医療機関の専門家が医療をテーマに語り合うようなフォーラムの開催はいかがでしょうか。地域の方が医療従事者になって、また地域に帰ってきて医療を担ってもらうことが大切であります。それには中学生から、さらに医療とまちづくりについて考えを深めていただけるよう医師、看護師からのアドバイスも聞ける。それにまた中学生が質問するというような、「住みよいまちは医療から」をテーマとした市民医療フォーラム、中学生が参加して医療機関の専門家と意見交換ができるようなフォーラム、そういったものを開催していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

中学生に医療に対して興味を持っていただくということは、大変大切なことだというように思っておりますが、私どもの立場とすれば教育委員会との協議や、また、学校現場での意向の確認が必要だというふうに考えるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

手続、あるいは組織のことですから、いろいろとあると思うんですけども、問題はそういうテーマを持ってフォーラム、あるいは医療機関の専門家と中学生が意見交換をする場が大事なんじゃないかなということなんですけど、そういったものを進めていっていただけるかどうか、方向性だけでも教えていただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

医療関係に特化したものだけというわけにはいかないかもしれませんが、キャリア教育の一環として、こういうことも取り上げていくということは重要なことかなという思いがいたします。ぜひ計画の中に組み入れられるかどうか、各学校と検討してみたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

では、子供の命を守る取り組みについても伺います。

子供の命を守る医療としては子ども医療費入院助成、通院助成、ひとり親家庭等医療費助成、各種予防接種助成などありますが、その後の子供の医療対応の拡大について、お話をお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

教育次長（竹之内 豊君）

その後の拡大ということで、昨年6月議会で同じご質問をいただいておりますので、その後の拡大という意味で申し上げますと、子供の医療費に対する助成でございますが、昨年の6月から中学生の2子以下の通院の部分についても対象といたしまして、中学生全員に拡大をし、それから昨年9月には、高校生の同じく2子以下の通院の部分を対象とすることにより、現在、高校生以下全ての子供を医療費助成の対象にしたというところでございます。

その他、ご指摘のありましたひとり親の家庭に対する高校生以下の子供及びその親を対象に、助成については前年度以前からの継続で取り組んでございますし、インフルエンザの予防接種の助成につきましても13歳未満の子供を対象に半額助成ということで、これも継続して助成の取り組みをしているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

頑張ってくださいますね、ありがとうございます。

では次に、子供の夜間の救急対応について、毎回、毎回、伺っております。毎回、同じ答弁でありますけども、糸魚川市からの情報の出し方、それから糸魚川市による身近に相談できる子供救急の対応について、ホームページ等での周知について、この1年間で検討され、充実してきたことは何か伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

教育次長（竹之内 豊君）

同じく昨年の6月議会で議員のほうからご提言をいただいた、おおむね2点であったと思うんですけれども、市のホームページの中でトップページでわかりやすく、子供の命を守るというバナーを設置するなどして、そこに全てを集約してほしいというのが1点。もう1つは、子供の命を守るガイドブックの作成という、2つのご提言であったかと思っております。

ホームページにつきましてはトップページの性格上、1つのものを大きく取り上げますと、ほかのものが非常に目立たなくなるという、そういう特性もございます。現在のトップページには、医療情報という、トップページの中段に大きなバナーみたいなものがあるんですが、そこをクリックしていただきますと、子育て、あるいは子供の病気、親子の健康、子育て支援というふうなことで、そういった子供の命を守る部分のページにリンクするような形をとっておりますし、また、右側のほうには人生の出来事別の中にも、子育て、病気というトップページには部分がございます。さらに細かくなりますが、下のほうにいきますと、健康・福祉という分野の中からもそこへたどり着くという、トップページの中でも幾つかの場所から、そこが開けるようなことになっておりますので、そこについて改善ということには至っておりませんが、言葉の面でわかりにくいというところがあれば、また直していきたいというふうに思っております。

それからガイドブックにつきましては、現在、ご提言のあったようなものについては、子育てお役立ちブックというものを既に作成しておりまして、出生児の届け出時に配布をしております。また、ホームページからもダウンロードできるようにしてございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

丁寧なご説明をいただきましてありがとうございました。

ホームページのそのデザインについて、ちょっと意見を申し上げますと、ただ言葉だけじゃわからないですね。文書のところをクリックするんじゃなくて、やはりバナーに子供さん、あるいは若いお母さんのイラストがあしらってあるとか、それから医療機関の写真ですよ、そういったものとか、もう少しデザインの工夫をしていただきたい。要望しておきます。

では次に、小学校などでの感染予防対策について伺います。

季節を問わず感染が起きるようになってきましたが、その情報収集と情報伝達について、行政、担当課の対応はどのようになっていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

感染症が発生した場合には、市の教育委員会に学校から報告がございます。それをもとに保健所と教育事務所のほうに連絡をいたします。こども教育課では、その情報を市内の学校に伝達をしております。また、幼稚園、保育園につきましては、こども課から連絡をしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

それで、その相談窓口となるところが、少しでも専門的な対応がなされるような人員配置となっているのか。また、552-1511、市役所だけだと、あるいは保健所だけだと、土日、夜間は連絡できないよねということにもなっていくんですけども、そこら辺は、どういうふうにお考えになってますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

教育次長（竹之内 豊君）

子供の健康、あるいは急病に対する相談窓口というところでございますが、人員配置の面で申し上げますと、当こども課の中で保健師は正職員で4名、臨時職員1名、計5名の配置でございます。各種健診会場での相談、あるいは市役所へ来庁された相談に対する相談に応じておるところでございます。

それから休日、夜間については、どうしても電話では警備員が出るわけでございますが、やはりかかりつけ医や病院に対する受診というものを勧めるようにしておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

先ほどもちょっと保健師さんの働きということに触れましたけど、市の保健師さんというのは、今みたいな相談業務にどうかかわっているんでしょうか。県と連携をとって、誰かがその相談を受けられる。その役割を市の保健師さんも果たすというふうな対応を私は望むんですけども、そこら辺、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

教育次長（竹之内 豊君）

一連の健診の中で、保護者の皆さんの不安だとか悩みに対する相談については、積極的に伺ってるところでございますが、医療が必要かどうかという点については、やはり受診をお勧めするところにとどまっているというところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

今後の課題と受けとめたいと思います。

では、保健センターの改修工事と活用について。

市民の健康、それから予防医療のための施設である保健センターの活用計画については、議会、委員会でよく示されないまま建物が完成し、そして供用開始に至ってるというふうに私は受けとめております。であるとすれば、とても残念なことであります。その辺の事情を、担当課よりお聞かせいただければと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

糸魚川保健センターの改修工事につきましては、3月9日に竣工いたしてありまして、3月17日の検査というような形でございました。3月は3月議会の日程等がありましたことから、委員会での見学は行いませんでした。今、議員ご指摘のように、委員会を軽視したというようなつもりはございません。そういった誤解を招いたのであれば、おわびをさせていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

建物は立派にできましたね。私が先日、保健センターを訪れたときは、ちょうど健康教室が終了して、利用者の皆さんが会場から出てきたところに遭遇しましたけども、感想を伺えば、一様に喜んで参加している、楽しかったとの評価をいただいております。ただ、この施設、利用されていない時間も多いと伺っております。施設の利用率を高めて、有効活用をしていただきたいと思います。

今後、運営をサポートするスタッフをふやすことや、多くの人に気軽に利用していただけるような管理方法というものを考えていかなければならないと思いますけども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

糸魚川保健センターにつきましては、本年度から青海地域、糸魚川地域の乳幼児健診の場という形で使わせていただいておりますし、また、市長答弁でも先ほど申し上げましたように地区運動教室、ころばん塾等として新たに活用開始をさせていただいております。これらの活用計画につきましては、昨年の8月20日だと思いますが、市民厚生常任委員会の中でも若干、計画案という形

でお示ししております、それらの最新の形で6月の市民厚生常任委員会の中で、お話をさせていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

また常任委員会で伺います。

この保健センター、近くには糸魚川市こころの総合ケアセンターもありまして、ここと連携して精神のケアと身体のケアという2つの機能を果たす医療の拠点となることは期待を申し上げるわけですが、こういった施設の連携、活用ということ、これからの課題だと思いますけども、何かお考えがあれば伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

連携につきましては、既にバタバタまつりなどを通じまして、こころの総合ケアセンター、また、好望こまくさとともに、共催事業というふうな形で実施をさせていただいております。今後もそういった形の中で、連携を強化してまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

では、質問の2に移ります。

では、人気テレビ番組「プラタモリ」などの撮影誘致、放映による糸魚川からの情報発信の取り組みについて再質問でありますけども、北陸新幹線開業に対応した沿線各都市の番組撮影誘致合戦、大変なものであったのではないかなと思います。糸魚川の露出と反響について、いま一度、担当課に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

この1月から5月までのテレビ放映でございますけども、全国放送だけに限りましては東京をキー局としたNHK、日本テレビ、TBS、フジテレビ、テレビ朝日、テレビ東京といったそれぞれの番組、ニュース番組であったり、それから旅番組といったところで取り上げられております。こういった取り上げられ方が、主要施設等での入り込み客数の増につながったものというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

私もいろいろと見ていました。それで施設の入り込み客数増につながったということは、大変よかったですと思います。しかしながら糸魚川駅は、日本海に一番近い新幹線駅との紹介があったにもかかわらず、そのことについての糸魚川の魅力を伝えるに至らなかったのではないかという感想も持っております。糸魚川の紹介において、情報を出す側からの創意工夫が必要だったのではないかと思います。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

私も幾つかの番組を見ましたが、その中でご指摘の日本海に一番近い駅という形の報道番組は、それなりにあったのかなというように考えております。その一方で、糸魚川の持つ多様な観光資源ということで、カニであったり、奴奈川姫であったり、ヒスイであったり、けんか祭りであったり、ブラック焼きそばといった、まさに糸魚川の多様な観光資源が、いろいろな角度から、いろいろな番組で取り上げられたというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

何となくワンパターンだったような気がするんですね。どの番組を見ても同じような絵づらだったんじゃないでしょうか。

さて、人気テレビ番組の「ブラタモリ」でありますけども、個人的な主観も入っております。しかしながら、私、この「ブラタモリ」を見るにつけ、糸魚川こそ撮影地として取り上げてほしいといつも感じています。この「ブラタモリ」の金沢が撮影地のときにタモリさんが、金沢の地名のもととなった砂金のとれる河原に向かって歩きながら、「うん、ヒスイでもとれるのか」と口にしたような記憶があるんです。これについては、今、NHKに問い合わせ確認をしているところです。このときに私、糸魚川なら河原でヒスイがとれるのになというふうに思った。それから、どの撮影地でも断層、地形、地質の見学ができる場所をタモリさんは大変喜ばれて、また見事なうんちくを語られている。そういったことから、たとえ一般的な知名度は、ほかのところに比べて低くても、糸魚川がタモリさんから強く興味を持っていただける場所として、これから糸魚川が有名になるチャンスが、この番組にはあるように私は感じております。

そうは言っても、糸魚川が「ブラタモリ」の撮影地に選ばれることは、世界ジオパークに認定されるよりもハードルが高いことでしょう。ただ、それだけに市民こそって、この撮影誘致に取り組んでみることは、決して無駄にはならないと考えます。そこで、これまで放送局や番組制作会社な

どへの働きかけをしてきたかどうか伺います。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

私どもやはり「プラタモリ」の場合には、名所旧跡を歴史的背景、あるいは地形的背景を織りまぜながら番組がつくられていると思います。ジオパークでいいますと、やはりその物語性が重要だと思っております。そうした中でヒスイなり、奴奈川姫といったものを機会を見ながら各テレビ局、放送局等にお伝えしているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

私がちょうど20歳のころタモリさんがテレビに出るようになって、おもしろい人が出てきたなというふうに思っていたら、あっという間に人気が出まして、今日の地位を築かれました。以来、30年以上、第一線で活躍されて、国民に与える影響は大きい。しかも断層や地質、歴史、鉄道などへの造詣が深いとなれば、タモリさんから糸魚川を番組で取り上げていただく働きかけをする過程で、糸魚川というのはどんなまちなのか、魅力あるのか、ないのか、おもしろいのか、おもしろくないのか、番組となるだけのコンテンツを持っているまちなのか、そうでないのか。ジオパークがいいのか何がいいのかクールに外部評価をしていただける、そんな機会になるのではないかと。そしてこれがこれからのまちづくりの指針となるのではないかと思います。今回の質問をしています。

そこでいま一度、各担当課に伺いますが、もし人気テレビ番組「プラタモリ」に紹介するとすれば、ずばりどこ、何だと思うか。課長さんご自身が「プラタモリ」に出演し、タモリさんを市内案内をするつもりでお答えいただきたいと思います。まず、糸魚川のまち歩きを観光客や市民が楽しむ仕掛け、そういったものに対してご紹介をいただきたいと思いますが、担当課さん、お願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

まち歩きといった点では、糸魚川の駅北には奴奈川姫の像があったり、相馬御風宅があったり、そしてレトロな町並み、新潟県最古の酒蔵があったりといったものがあります。こういったものにつつまして、いわゆる歴史的な背景、そして街道としての町並み、そういったものをお伝えしていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番(田原 実君)

相馬御風と糸魚川文化についていかがでしょうか。できればタモリさんの興味を引くように、個人的でおもしろい紹介というものをさせていただきたいんですけども、担当課さん、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長(磯野 茂君)

お答えいたします。

おもしろい紹介というのは、なかなか難しいと思いますけれども、まずはやはり早稲田大学の先輩、あるいは後輩としての御風、早稲田大学の校歌ですとか童謡「春よ来い」をはじめとする作詞者としての御風、多様な文化人と交流があった御風、お酒をこよなく愛したと言われる御風、そしてふるさと糸魚川の歴史や風俗習慣を探求し、全国に知らしめたほか良寛研究の第一人者として活躍し、奴奈川姫伝説にいち早く注目し、また、バタバタ茶の風習を紹介したほかヒスイ発見の端緒をつくったなど、御風と現代につながる糸魚川の文化とのかかわりや、その影響につきましては、枚挙にいとまがないというふうに紹介をしたいと考えます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番(田原 実君)

観光課長にもう1回伺います。糸魚川駅周辺、中心市街地というのは歴史的な町並みになってますね。私は非常に好きです。いろいろとまだ皆さんご存じないようなこともあると思うんですけども、ここもできればタモリさんの興味を引くような、個性的でおもしろい紹介というものはないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長(渡辺成剛君)

お答えします。

糸魚川は東西文化のまさに境界ということですが、糸魚川駅の日本海口をおりた前、駅前通りは現在も地下に暗渠という形で城之川が通っております。その東西、東側の寺町のほうへ行きますと消雪パイプから出る水が茶色くなっている。一方で、城之川の西のほうに行きますとそんなに茶色でないといった、ちょっとなぜだといったようなことを絡めながら話してみるのも、1つの方法かなというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番(田原 実君)

ありがとうございます。

では次に、筒石地区集落の特徴ある漁村、これを見て、学んで楽しむ仕掛け、これもタモリさんが学んだり、楽しんだりすることを想像してお答えいただきたいんですけども、筒石駅はおもしろい、それから坂道が多いですね、坂道の景色がとてもいい。そして3階建て、4階建ての木造家屋、その家屋の前と後ろではタモリさんの好きな高低差があると。タモリさんに興味を持ってもらえそうな場所として、私はナンバーワンなのではないかなと思うんですけども、ここについてはいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

お答えいたします。

議員のおっしゃるとおり前は海と国道、後ろは、そそり立つ崖の間のわずかな平地に家が密集する筒石地区は、自然との過酷な戦いと順応の姿がうかがえる漁村であるというふうに思います。興味や関心を呼びそうな場所ではありますけれども、市長、冒頭答弁いたしたとおり、プライベートな空間と路地が近接していると、そんな住環境でありますことから、そのようなことへの配慮が特に必要かなというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

それでは続けてなんですが、糸魚川ジオパークの特徴的な地形、地質やヒスイをはじめとする豊富な鉱物、鉱石などを学び楽しむ仕掛け、これはもうリニューアルしたフォッサマグナミュージアムがあるじゃないかと、今さら何を言うかという感じかもしれませんが、そのテレビ番組に紹介するために情報を絞り込んで、やはり引きつけるということも必要ではないかと思うんですね。こちら辺、どのように考えていかれるか、お考えがあれば伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

今、議員ご指摘の高低差という話でいきますと、小滝川ヒスイ峡から流れてきた石が海岸へおりてくる、それも1つの高低差だと思えますし、高い、低いでいきますと縄文遺跡の高い、低いというものもあると思います。いずれにしてもキーワードは世界最古のヒスイ文化の発祥地、そこにヒスイ、そして奴奈川姫がいたと。こういった切り口でいくのが、1つの方法かなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番(田原 実君)

皆さん、知恵を絞っていただいております。何やらもう「プラタモリ」の撮影誘致ができそうな気がしてまいりました。

さて、この「プラタモリ」の撮影誘致、素人の私が考えるくらいですから、ひょっとしてほかの自治体、ジオパーク認定地は既に動いているかもしれません。もしこれを佐渡にでも持っていかれたら非常にくやしいですよ。市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長(米田 徹君)

お答えいたします。

私も「プラタモリ」は好きで、なかなかタイミングが合わなくて全ては見えてはございませんが、非常に人の目のつかないところに目をつけてもらったり、また、非常に楽しく地形を語ってくれる、非常に私といたしましても関心のある番組であるわけでありまして。前は東京だけでやっていたんですが、地方へ出るようになってきたわけでございますので、やはり期待もするわけでありまして。

ただ、我々ジオパークの仲間のところを回っていただければ非常にありがたいな。ジオパークの露出が高くなれば、それほど我々も近くないうちに来てくれるかなと思っているんですが、しかし、バラエティーの中においては、やはり糸魚川が一番かなと思っていますので、一番最初に来ていただきたいというのが私の願いでもあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番(田原 実君)

ぜひ一度、タモリさんに糸魚川にお出かけいただいております。魅力を知っていただく、そのように進めてください。

終わります。

議長(倉又 稔君)

以上で、田原議員の質問が終わりました。

次の質問に入る前に、答弁者にいま一度お願いします。答弁は簡潔に、要領よくまとめていただくよう願います。

次に、田中立一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

田中議員。〔7番 田中立一君登壇〕

7番(田中立一君)

市民ネット21、田中立一でございます。

発言通告書に基づいて一般質問を行います。よろしく願いいたします。